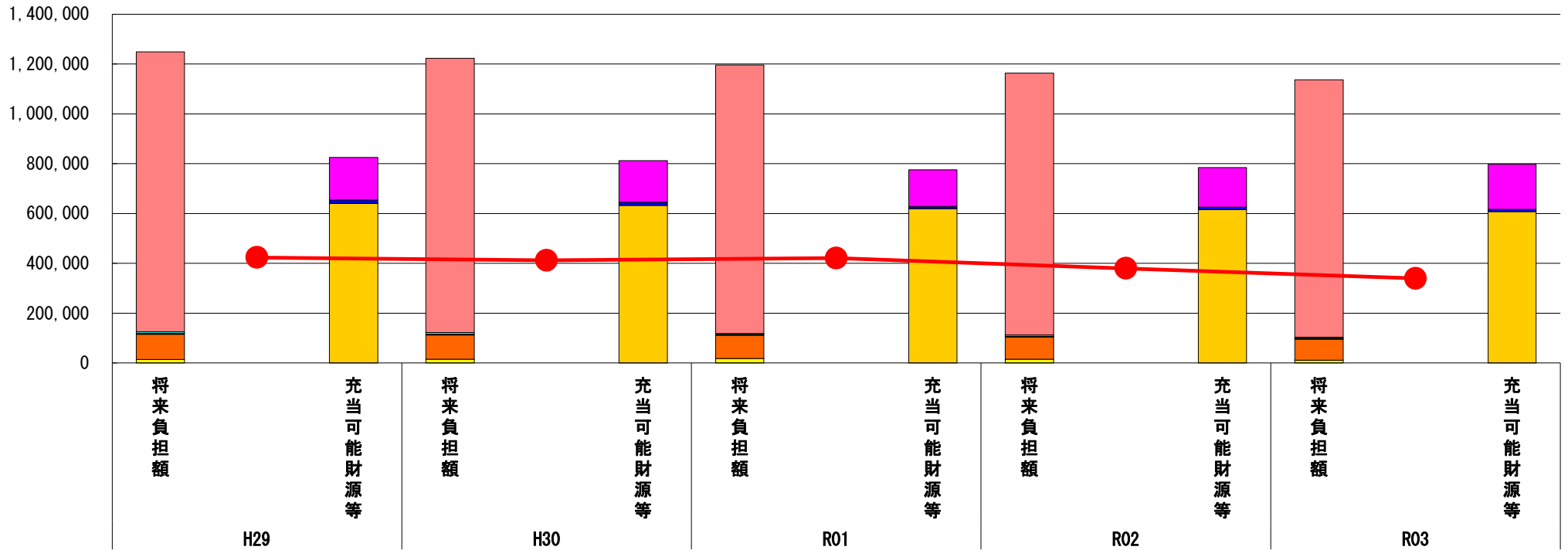


# (10) 将来負担比率（分子）の構造（都道府県）

令和3年度

奈良県

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H29	H30	R01	R02	R03
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		1,123,719	1,101,861	1,077,864	1,051,602	1,032,719
	債務負担行為に基づく支出予定額		6,053	5,980	4,354	5,297	3,816
	公営企業債等繰入見込額		785	797	598	1,172	2,664
	組合等負担等見込額		2,523	2,237	2,019	1,792	1,641
	退職手当負担見込額		102,311	97,984	93,859	88,501	84,440
	設立法人等の負債額等負担見込額		13,259	14,599	17,546	15,186	11,060
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		171,409	166,368	147,184	158,606	179,934
	充当可能特定歳入		13,491	13,339	9,367	9,906	9,185
	基準財政需要額算入見込額		640,386	631,904	618,903	615,232	607,620
(A) - (B)	将来負担比率の分子		423,364	411,847	420,785	379,806	339,600

## 分析欄

平成29年度から令和3年度にかけて、将来負担額は継続的に減少傾向にある一方、充当可能財源等は令和2年度から充当可能基金の増加等により増加傾向にある。

令和3年度においては、地方債残高の減少や、充当可能基金残高の増加などにより、将来負担比率（分子）は減少した。

本県では、投資的経費に充当する通常債について発行抑制に努めており、また発行する場合は交付税措置のある財源的に有利な地方債の活用にも努めている。

今後も引き続き将来負担の軽減のため、取組を継続する。